

トークンレス・ワンタイムパスワード

PassLogic

エンタープライズ版

バージョンアップ概要とリリースノート(エンタープライズ版 v4.3.1)

2021/5/11



1. リリースノート
2. ピックアップ

PassLogicの歩み

マトリックス専用から「多要素認証プラットフォーム」へ高機能化！

1997 「乱数表から抜き出してワンタイムパスワードを生成する」システム PassLogic 認証方式を発明。

2000-2006 パスロジック方式の技術ライセンスを日本企業へ提供。

2008 Webサービス組み込み用APIを強化。スマートデバイスにいち早く対応。

2010 セキュリティポリシーや運用機能、連携機能など基本機能を大幅に拡充。英語対応し海外展開が可能に。マルチテナント版リリース。

2012 マルチテナント版機能拡充しサービスプロバイダのデファクト採用の礎に！
(ソフトバンク/富士通/KDDI/NEC/IIJ など)
70万ID突破

2015 エンタープライズ版の機能拡充。主要連携製品とメーカー間の検証を完了。ソフトウェアトークン提供開始
100万ID突破

2017 IPアドレス制限、Windowsログオン、PKIに対応のメジャーバージョンv3.0リリース。
ハードウェアトークン対応、API提供開始のv3.1リリース
110万ID突破

2021 ログインプロテクト機能リリース (予定)

1997

2000 PassLogic認証方式が米国特許(US6141751)を取得。会社設立。

2007 PassLogicのパッケージ販売を開始。SSL-VPN連携機能を実装。

2009 Webアプリとの連携機能 (リバースプロキシ&SSO) を実装。LDAPからのユーザーID同期を実装。
2009

2011 クラウドアプリ連携 (SAML) に対応。スマートデバイス最適化。

2013 運用の自動化を実現する機能拡充。
80万ID突破

2014 小規模から大規模要件まで対応可能なエンタープライズ版をリリース。
90万ID突破

2016 利用者視点の機能強化を中心に、計5回のバージョンアップ、約70の機能追加・改善を実施。

2019 エンタープライズ版にマルチテナント機能提供開始
2020 PassLogicクラウド版提供開始
130万ID突破



V3系のライフサイクルについて

2019年3月のPassLogic Ent v4系のリリースに伴い、v3系のライフサイクルが下記の通り確定しております。

対象バージョン	EoS	EoL
PassLogic エンタープライズ版 v4系	v5.0の提供開始後に日時決定	EoSから5年後
PassLogic エンタープライズ版 v3系	2019/8/31	2024/8/31
PassLogic エンタープライズ版 v2系	2017/11/18	2022/11/18
PassLogic エンタープライズ版 v1系	2015/10/15	2020/10/15

メジャーバージョンアップ版は年間保守サポートサービスのなかでソフトウェアプログラムをご提供します。

EoS : End of Sales (販売終了)
EoL : End of Life (サポート終了)

リリースノート

リリースノート

pickup 左記pickupラベルの項目は本資料内で概要をご紹介します。

【新規機能】

- なし

【機能拡張/改善】

- PHP 7.4に対応しました **pickup**
- PostgreSQL 12.5 / Pgpool 4.1.4に対応しました **pickup**
- PassLogicエンタープライズ版v4.3.0からのBackup Converterを追加しました
- インストーラの英文メッセージを改善しました
- 任意のTimezoneに対応しました **pickup**
- 4.3.0からの性能改善を行いました **pickup**

【不具合修正】

- SSL-VPNで、ADパスワードに空白が入っているとADパスワードがPOSTされない不具合を修正しました

【その他】

- 推奨SSLProtocolをTLSv1.2としました



ピックアップ

PHP 7.4への対応

サーバーOSのRHEL8系(CentOS8系)がサポートするPHPのバージョンが変更となることに対応するための変更です。

なお、PassLogic エンタープライズ版 4.3.1は、これまでサポートされていたPHP 7.2には対応していませんのでご注意ください。

内部で使用するPostgreSQLのバージョンが変わります。

これは、サーバーOSのRHEL8系(CentOS8系)がサポートするPostgreSQLのバージョンが変更となることに対応するためです。

任意のTimezoneに対応しました

これまで、PassLogicのタイムゾーンは“Asia/Tokyo“の固定値でしたが、本バージョンからはサーバOSのタイムゾーンで処理するように変更されました。

4.3.0からの性能改善

PassLogicエンタープライズ版 v4.3.0向けに提供中の性能改善パッチ(t1569)と同等の改善を実施しています。

本改善により、PassLogic認証サーバへの多重アクセス時に、CPUを十分に使い切れない問題を改善し、秒間当たりの認証処理について、最大で2倍ほどの改善が見込めます。

なお、本件の性能問題は、RHEL8系(CentOS8系)のみで発生し、RHEL7系(CentOS7系)のOSでは発生しません。

※PassLogicエンタープライズ版 v4.2.0以前はRHEL8に対応しておらず、いずれもRHEL7系で稼働します。